

第3回自治医科大学附属病院地域医療連携研究会

糖尿病の連携医療

日時 平成26年2月8日(土) 18時~20時

場所 ベルジュエネ迎賓館(小山)

テーマ 糖尿病の連携医療

第一部 講演

第二部 パネルディスカッション

主催 自治医科大学附属病院

後援 栃木県医師会、栃木県歯科医師会

【 講 演 】

I 『 増殖糖尿病網膜症に対する硝子体手術 』

自治医科大学糖尿病センター 眼科 教授 佐藤 幸裕

糖尿病網膜症は成人の失明原因の第2位であり、1年間に約3,000人の糖尿病患者が視力を失っている。失明の具体的な原因は吸収しない硝子体出血、黄斑部を含む牽引性網膜剥離、血管新生緑内障である。このうち、硝子体出血と網膜剥離は早期に硝子体手術を行えば有用な視力回復が可能である。一方、血管新生緑内障を発症した患者の予後はいまだ不良である。増殖糖尿病網膜症に対する硝子体手術の現状と、失明を防止する網膜症管理について具体的に解説したい。

II 『 糖尿病腎症予防と透析準備 』

自治医科大学 腎臓内科 教授 長田 太助

栃木県には約5500人の透析患者が存在する。年間の新規導入患者数は約700人であるが、その原疾患の4割強が糖尿病性腎症である。我が国の血液透析のレベルは世界一と言われており、その高い技術力のおかげで透析導入年齢も年々上昇し、全体で68.4歳、糖尿病性腎症で66.7歳に達しているが、それが国の保険財政を逼迫させる元凶の一つになっている。糖尿病性腎症は10年単位の割合長い経過で顕在化するが、大量の蛋白尿が出現してネフローゼ化する、もしくは腎機能廃絶寸前まで進行した時点で、現代の医療レベルではほぼ打つ手がない。糖尿病性腎症を抑え込むには、微量アルブミン尿が出現するくらいのごく早期から強力に医療的な介入を試みる事が重要である。この講演では効率の良い糖尿病性腎症のスクリーニング方法、効果的治療法、そして万策尽きて末期腎不全が視野に入った際の安全な腎代替療法導入についてレビューしてみたい。

III 『 糖尿病疾患の口腔疾患 』

自治医科大学 歯科口腔外科 教授 草間 幹夫

糖尿病の口腔症状は、①口腔乾燥、②口腔内の化膿性病変・蜂窩織炎、③口腔粘膜疾患の増悪、④神経麻痺、特に味覚異常、⑤口臭および⑥歯周病の増悪などがある。具体的には、慢性の歯性感染症が糖尿病の背景があることによって歯肉膿瘍、骨膜化膿瘍、頬部、顎下部蜂窩織炎および顎骨骨髓炎などを惹起する。また、口腔粘膜疾患の増悪も起こる。患者本人が無自覚で、口腔の症状からはじめて糖尿病が露見することも少なくない。口腔乾燥をきっかけに口腔カンジダ症も起こる。歯周病は、慢性の細菌感染症であるが、糖尿病患者は非糖尿病患者と比べて2~3倍高い歯周病罹患率を示しているとされる。逆に、歯周病患者の血糖コントロールが難しいことも明らかになっている。歯周炎が重症なほど、血糖コントロールが悪化しやすいといわれている。歯周病患者は、歯周組織で炎症性因子が持続的に産生され、これらの物質がインスリンの作用を阻害するためと考えられている。口腔疾患の症例供覧を含めて解説したい。

IV 『 肥満外科治療の適応と治療成績 』

自治医科大学 消化器外科 准教授 細谷 好則

内科的治療の困難な病的肥満症に対して、腹腔鏡下に胃を Sleeve 状(バナナ状)に縮小する肥満手術を施行しています。適応は日本肥満症治療学会の手術適応条件に準じて、BMI \geq 35kg/m²あるいは BMI \geq 32kg/m²で2つ以上の肥満関連症を有する 1 次性肥満としています。2010 年に高度先進医療を取得し、現在まで 13 例に施行しました。術後の余剰体重減少率は約 55%です。糖尿病症例ではインスリンの離脱を認めます。睡眠時無呼吸や無月経などの症状は改善します。肥満外科治療を安全・確実に行うためには内科、外科、麻酔科、精神科医師、看護師、栄養士、ソーシャルワーカーによるチーム医療が極めて重要です。

【パネルディスカッション】

～ 『 糖尿病における地域医療連携のあり方を考える 』 ～

司会

小山イーストクリニック 理事長・院長 大橋 博

自治医科大学 内分泌代謝科 准教授 長坂昌一郎

患者数の極めて多い糖尿病では、プライマリケアから専門的診療まで、患者の必要とする医療ニーズは幅広い。本パネルディスカッションでは、まず高田良久先生に糖尿病地域連携パスの現状と展望についてご発表いただく。次いで当院医師・看護師・管理栄養士から、当院における糖尿病関連の連携診療の基本方針や、具体的に提供可能な医療について発表していただく。ディスカッションでは、ご質問・要望をいただいた事項を中心に討議したい。

パネリスト

高田クリニック 院長 高田 良久

「 栃木県の糖尿病地域連携パスの現状と今後の方向性 」

自治医科大学 内分泌代謝科 准教授 大須賀 淳一

「 当科の病診連携の基本方針・入院治療について 」

自治医科大学 内分泌代謝科 講師 岡田 健太

「 当科の外来診療の現状について 」

自治医科大学 臨床栄養部 室長 佐藤 敏子(管理栄養士)

「 食品交換表の改訂と食事療法のポイント 」

自治医科大学 看護部 師長 馬場 千恵子(糖尿病看護認定看護師)

「 糖尿病看護外来の実際 ～看護専門外来の視点から～」